

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

別紙1

(本市の要安全確認計画記載建築物(防災拠点施設)で用いられた国土交通省告示(平成18年第184号)において定められている耐震診断の方法の名称、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評安全性の区分)

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の区分		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震 診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	$Is/Iso < 0.5$ 又は $CT \cdot SD < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Iso$ かつ $0.3 \leq CT \cdot SD \leq 1.25$
			$1.25 < CT \cdot SD$

- I 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
 II 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
 III 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7程度の大規模地震に対する安全性を示す。
 いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされている。

記号の説明

記号	名称	説明
Is	構造耐震指標	・個々の既存建物が保有する耐震性能を数値で表した指標 ・構造図面やコンクリート強度試験結果等をもとに、建物が保有する「強度」と「粘り強さ」、「建物形状のバランス」、「経年劣化」をそれぞれ評価して、構造計算により算定する ・個々の建設年や構造計画等によって数値は変わる
Iso	構造耐震判定指標	・建物の耐震性能の有無を判定するための指標 ・全国基準では鉄筋コンクリート造や鉄骨造は一般的に0.6(一部0.7)
$CT \cdot SD$	累積強度指標(CT) 形状指標(SD)	・鉄筋コンクリート造の建物に一定の「強度(堅さ)」を確保するための指標 ・建物の「粘り強さ」を過剰に評価すると(地震時の倒壊は免れても)外装材の脱落等を生じる危険性が大きくなるため、それを防止するために、一定の「強度(堅さ)」を確保